

表1 巣箱内で確認された動物及び痕跡

立神調査地		2010/8/9設置, 巣箱総数10個													計	
確認	見回り期日	2010				2011										
		9/11	10/10	11/14	12/11	1/8	2/11	3/13	4/9	5/7	7/10	8/27	9/24	10/30		
動物	カラ類spp.	0	0	0	0	0	0	0	0	3(卵5, 雛3, 雛5)	0	0	0	0	3	
	ニホンヤモリ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	無脊椎動物	2	4	4	1	0	0	1	4	1	1	8	5	4	35	
痕跡	種子食痕	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	3	
	落ち葉巣材	0	0	3	0	1	0	2	0	0	2	0	0	0	8	
	樹皮巣材	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	コケ巣材	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	1	0	4	
	カラ類産卵床	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	0	0	0	4	
	その他	0	0	2(入口齧痕)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1(入口齧痕)	3
妙見調査地		2010/8/9設置, 巣箱総数10個														
動物	カラ類spp.	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ニホンヤモリ	1	4	1	0	0	0	0	0	3	1	5(卵3)	2	3	20	
	無脊椎動物	2	3	2	0	0	0	2	2	3	1	2	1	1	19	
痕跡	種子食痕	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	3	
	落ち葉巣材	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	4	
	樹皮巣材	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
	コケ巣材	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	4	
	カラ類産卵床	0	0	0	0	0	0	0	2	1	2	0	0	0	5	
	その他	1(枯枝)	0	3(木屑持込2, ネズミ類糞1)	0	1(木屑持込)	0	1(クモの巣)	0	2(入口齧痕 直径8cm)	0	2(ネズミ類糞・アリの巣)	0	0	10	
古麓調査地		2010/11/14設置, 巣箱総数10個														
動物	カラ類spp.				0	0	0	0	2(ヤマガラ抱卵中)	1(シジュウカラ雛7)	0	1(雛7)	0	0	4	
	ニホンヤモリ				0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	3	
	無脊椎動物				0	0	0	2	2	0	2	0	2	1	9	
痕跡	種子食痕				2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
	落ち葉巣材				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	樹皮巣材				2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	
	コケ巣材				1	0	0	1	1	1	2	2	0	0	8	
	カラ類産卵床				0	0	0	0	0	4	3	3	0	0	10	
	その他					2(クモの巣, ゴキブリ死骸)	0	0	1(クモの巣)	0	1(スズメバチ巣痕)	0	1(スズメバチ巣痕)	0	2(入口齧痕)	7

置され再生したと思われる約30年生の二次林である。また、2011年8月～10月にかけてムササビも撮影された。撮影された地点の巣箱は入口が直径約8cmに齧り広げられており、本種による痕跡と考えられた。また、ヒメネズミやテンも撮影された。ニホンモモンガについてはその生息を示すような情報は得られなかった。当調査地の特徴はニホンヤモリの姿が多く見られたことであり、8月には巣箱内での産卵も確認された。

古麓調査地は予備調査において調査地に隣接する神社と寺院からムササビの目撃情報を得、家屋の壁に開けられたムササビの巣穴を確認した。巣箱自動撮影法ではヒメネズミとテン(図3d)が撮影されたのみであった。ただ、2011年9月にスギの樹皮をこまかく裂いた巣材が巣箱内に1/3ほど詰め込まれていた(図3e)ことから、ニホンモモンガかヤマネの生息の可能性がある。また、妙見調査地と同様、ニホンヤモリが確認された。

考 察

1 ヤマネ

八代市竜峰山周辺の3ヶ所の調査地のうち、妙見調査地でヤマネの生息を確認した。当調査地は竜峰山の南端に位置し、八代平野に接した標高90～140mの山中である。ヤマネが確認された巣箱の標高は110mであった。野鳥観察や林業体験が可能なように八代市が管理している場所で、植林間もない広葉樹の造林地や二次林、スギ植林地がモザイク状に存在している。これまで、九州におけるヤマネの生息が確認された場所は、主に自然林や発達した二次林がまとまって広がっている高標高の落葉広葉樹林であった。しかし近年、比較的標高が低い地域からも情報がいくつか得られている。熊本県水俣市大川の標高400～480mの常緑広葉樹からなる発達した二次林(坂田ほか 2010)や長崎県多良岳の標高260mの常緑広葉樹林(湊ほか 1998)、宮崎県鰐塚山地の標高166

表2 自動撮影カメラによる撮影種と撮影枚数

立神調査地	2010/8/9設置													計
	回収期日	2010				2011								
設置カメラ数 (フィルム・デジタル)	9/11 (4・1)	10/10 (4・1)	11/14 (4・1)	12/11 (3・2)	1/8 (3・2)	2/11 (3・2)	3/13 (3・2)	4/9 (3・2)	5/7 (3・2)	7/10 (3・2)	8/27 (3・2)	9/24 (3・2)	10/30 (3・2)	
ムササビ	0	0	3	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	8
ヤマネ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ヒメネズミ	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
テン	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
イノシシ	0	5	0	0	0	0	0	0	0	5	1	0	39	50
ニホンジカ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
その他哺乳類	0	0	0	0	ヒト3 イヌ2	0	イエネコ1	0	0	0	0	0	テングヨウモリ1 ヒト4	11
ヤマガラ	0	0	1	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	4
シジウウカラ	0	0	3	0	0	3	0	5	1	0	0	0	0	12
その他鳥類	種不明2	0	アオゲラ2 キジバト1	0	ヒヨドリ1	アオゲラ3 ソウシチョウ1	0	0	0	0	0	0	0	10
は虫類	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
無脊椎動物	0	3	1	0	0	0	0	0	0	26	3	2	2	37
不明・空撮り	32	55	69	22	80	28	25	132	306	98	60	51	80	1038
計	34	63	81	23	91	36	26	140	307	129	66	53	126	1175

妙見調査地	2010/8/9設置													計
	設置カメラ数 (フィルム・デジタル)	5 (4・1)	5 (4・1)	5 (4・1)	5 (4・1)	5 (4・1)	5 (4・1)	5 (4・1)	5 (3・2)	5 (3・2)	5 (3・2)	5 (3・2)	5 (3・2)	
ムササビ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	9	0	1	26
ヤマネ	0	0	1	6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	8
ヒメネズミ	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3
テン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	1	5
イノシシ	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
ニホンジカ	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
その他哺乳類	0	ヒト1	0	0	0	ヒト1	0	0	0	0	0	0	0	2
ヤマガラ	11	3	4	5	5	4	0	4	3	4	0	0	0	43
シジウウカラ	1	9	15	18	23	4	0	0	0	46	28	0	8	152
その他鳥類	0	メジロ1 キジバト1	ヒヨドリ3 マミチヤジナイ 6	ヒヨドリ1	0	アオゲラ2 ソウシチョウ1	0	0	カラスsp. 2	カラスsp. 7	0	フクロウ1	フクロウ2 アオゲラ1	28
は虫類	0	0	ニホンヤモリ2	0	0	0	0	0	0	0	ニホントカゲ1	0	ニホンヤモリ2	5
無脊椎動物	2	5	1	0	0	0	0	0	0	26	0	0	21	29
不明・空撮り	99	104	380	250	88	70	34	513	365	77	75	77	81	2213
計	113	129	413	280	117	82	35	517	370	150	115	81	117	2519

古麓調査地	2010/11/14設置													計
	設置カメラ数 (フィルム・デジタル)	5 (4・1)	5 (4・1)	5 (4・1)	5 (4・1)	5 (3・2)	5 (3・2)	5 (3・2)	5 (3・2)	5 (3・2)	5 (3・2)	6 (4・2)		
ムササビ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ヤマネ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ヒメネズミ	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
テン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
イノシシ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ニホンジカ	0	0	0	0	0	41	6	2	1	13	11	74		74
その他哺乳類				ヒト10	ヒト16 イヌ10	0	0	イエネコ1	ヒト1	0	0	0	ヒト1	39
ヤマガラ				3	0	1	0	25	27	9	0	2	2	69
シジウウカラ				0	1	1	4	2	0	5	0	0	0	13
その他鳥類				0	ヒヨドリ1 アオゲラ1 シロハラ1	アオゲラ2 ヒヨドリ2	ソウシチョウ1	シロハラ1	アオゲラ2	0	0	0	0	11
は虫類				0	0	0	0	0	へびsp. 2	0	0	0	0	2
無脊椎動物				0	0	0	1	0	1	1	1	5	0	9
不明・空撮り				102	107	343	338	235	323	100	97	114	75	1834
計				115	138	349	344	305	362	117	99	135	89	2053

m のスギ植林 (木場ほか 2008), 宮崎県北川町の標高 230 m のアカマツ林 (讃井 2001) などである。これらの生息情報から、標高そのものは本種の好適な生息地の指標とは直接関係ないことが推察される。安田・坂田 (2011, 2012) は、営巣場所や食物条件を規定する生物的要因と土地利用履歴がヤマネの生息と強く関係することを示唆した。竜峰山は九州におけるヤマネの最大生息地である九州中央山地から南西に延びる山塊の端に位置し、

八代平野に隣接している。人工林と二次林がほとんどを占めているが、神社仏閣が多いことから人為的攪乱が多少とも少なかったことが予想される。このようなことが、妙見調査地において本種の個体群が維持されてきた要因であろう。

なお、妙見調査地ではニホンヤモリが巣箱をよく利用していた。ニホンヤモリとヤマネが同所的に確認される事例はこれまでの報告にはない。本種は日本産のヤモリ



a ムササビ (2010年11月13日 23:07, 立神調査地)



d テン (2011年9月14日 21:18, 古麓調査地)



b ヤマネ (2010年10月23日 00:02, 妙見調査地)



e 巢内の痕跡 (樹皮を裂いた巣材, 2011年9月24日, 古麓調査地)



c ヤマネ (2010年11月17日 03:28, 妙見調査地)

図3 自動撮影された動物, および巢内の痕跡

の中で最も北まで分布しているが、その生活圏は冬眠可能な気温が保てる地域もしくは民家とその周辺であるという(田中 1996)。このことは、ヤマネは冬期に気温が下がりにくい平野部の暖地や民家の周辺であっても生息し、これまでの「奥山の動物」というイメージでは捉えられないことを意味している。

2 ニホンモモンガ

ニホンモモンガは本調査では確認されなかった。ただし、古麓調査地における樹皮を細かく裂いた巣材の確認により、生息の可能性は残されている。

九州における本種の生息記録は安田(2007)が詳細にまとめている。その後、巣箱調査や巣箱自動撮影法、写真や死亡個体の提供などにより、九州中央山地や祖母・傾山系とその周辺部からニホンモモンガの生息情報が徐々に得られるようになった(安田 2008, 安田・田中 2008, 九州森林管理局 2009, 坂田ほか 2009, 安田・栗原 2009, 壁村ほか 2010)。これらは落葉広葉樹を主体とする原生

林や二次林が比較的まとまった面積で残る場所で、比較的高標高の地域であった。その後、宮崎県綾町の標高300 m未滿の常緑広葉樹林内(大久保ほか 2011)、熊本県水俣市の標高400~480 mの常緑広葉樹林内(坂田ほか 2010)でも生息が確認された。愛媛県では標高100~220 mの常緑広葉樹林および隣接するスギ・ヒノキ人工林において本種が目撃されている(矢野 2009)。このようなことから、ヤマネと同様、ニホンモモンガの生息も標高や森林植生の違いといった要因とは、直接的な強い関係がないことが示唆される。

3 ムササビ

ムササビは立神と妙見において自動撮影カメラの映像によって生息が確認された。古麓は調査地周辺の聞き取りと痕跡からその生息が確認された。本種は高標高の脊梁山地から低標高の里山にも生息しており(安田 2007)、当調査地においても広く分布していると思われる。ヤマネやモモンガに比べると大型で特徴ある鳴き声も出し、